

## 平成 29 年度「第 1 回仕事と介護の両立ワークショップ」開催報告

### 備えあれば憂いなし！介護とお金の話

【日時】平成 29 年 7 月 21 日（金）18：00～20：00

【場所】長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟 2 階（多目的ホール）

【講師】太田 差恵子 氏（介護・暮らしジャーナリスト/NPO 法人パオッコ理事長）

平成 29 年 7 月 21 日（金）文教キャンパス総合教育研究棟にて、「第 1 回仕事と介護の両立ワークショップ」を開催いたしました。学内外から 28 名の参加がありました。

#### 1. ご挨拶（医歯薬学総合研究科 井口茂教授）

最初に井口教授より挨拶がありました。平成 27 年度から実施しているダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業についての説明の中で、介護についての取組を初めて 3 年目になること、毎年介護保険制度の改正が少しずつあっており、軽度と重度の要介護者のすみわけも進み、制度として構築されていることの説明がありました。

#### 2. 講演（介護・暮らしジャーナリスト/NPO 法人パオッコ理事長 太田差恵子氏）

講演では、太田先生より「備えあれば憂いなし！介護とお金の話」と題し、20 年以上にわたる取材活動のなかで得た情報や知識から、様々な事例を盛り込みながらお話がありました。

太田先生は、「介護にはいくら掛かるか？」これはよく質問されるが、「介護にいくら掛けられるのか？」これが答えであると冒頭で述べられました。介護が必要となった時、「親と仕事の狭間で介護離職に追い込まれることは避けたい、介護は家族だけでやる必要はなく、社会保障を十分に活用しできる範囲でやればよい」と述べ、仕事と介護を両立するための体制づくり（プランニング）が何より重要であること、公的介護保険の申請方法や申請を嫌がる親に「介護保険」の申請を提案する工夫、在宅介護と施設介護の違いやサービスの種類と内容等、事例にあてはめながら説明されました。

介護保険のサービスに合わせて、介護保険以外のサービスを利用することや、地域包括支援センターを活用すること、人を頼ることも必要であることをポイントとして話されました。

また、資金計画を立てることが重要であり、「介護は親の自立を応援するものだから介護資金は親のお金でプランニングする」と繰り返し述べられました。自分たちの生活設計を怠ることなく、無理のない範囲で支援することが重要であり、親も自分も何歳まで生きるかわからないことを常に頭に入れておくことが必要であると話されました。「介護に親自身のお金を使うことは、相続でもらうより、ずっと生きたお金の使い方である」と述べ、そのためには日々のコミュニケーションが必要であることも説明されました。

介護は在宅で行うと決めつけず、施設も選択肢に入れて、親や兄弟姉妹と十分な話し合いをして検討すること、施設を選ぶ際のポイントや料金についても詳しく話されました。

最後に、人生 100 年時代！親も自分も 100 歳超、生きることを考えた資金計画を念頭に自分の人生設計を怠らないことが重要であると締めくくられました。



写真1. 井口教授



写真2. 講師：太田先生



写真3. セミナーの様子

第1回仕事と介護の両立ワークショップには、多くのみなさまにご参加いただきました。センタースタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

アンケートでは「わかりやすい説明に納得しました」「介護はいくらかかるかではなく、いくらかけられるか…わかりやすい言葉でスーッと入ってきました」「親子の対話、家族会議の大切さを認識しました」「自分の生活は守る！に納得しました」など、気づきや学びを多くいただきました。アンケートへご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

長崎大学ダイバーシティ推進センターは、9月にも太田先生を講師に第2回仕事と介護の両立ワークショップを開催します。今後ますます介護の課題を抱える人が増加することが確実視されているなか、家族の課題を抱える方や今後課題に直面する可能性のある全ての方々が介護の理解を深められるきっかけとなりますように、仕事と介護の両立支援に取り組んでまいります。